

# 梶木敏巳の人生 風のままに

2

私の育った唐津には中国や韓国の優れた文化の足跡として唐津焼、伊万里焼、有田焼などがあります。幼少期に育った昭和30年代を題材にした映画「ALL WA YS 三丁目の夕日」は東京タワーが建設される中での庶民の物語でした。でも当時の地方の生活は残念ながらもう少し皆が環境的には貧しい時代でした。だけど何故か皆の一人一人が個性的で、夢があり世の中も元気でいた。

## 故郷唐津から世界へ

今年は新年早々に唐津を舞台にした戦前の青春映画が公開されました。「時をかける少女」や「転校生」で有名な大林宣彦監督の映画作品「花筐」が封切られて早速私は有楽町のスバル座で観賞しました。戦前の青春群像がテーマの純文学原作が檀一雄さん。私の



鏡山から望む虹の松原を背景に立つ筆者

だんにありますが。また唐津業が胡蝶蘭を生産してウエディングやイベントに使う仕事に誘われて従事するために静岡や東京を拠点に暮らして始めました。家族も抱えて既に30歳代の後半です。

のころを世界で展開しはじめる。15年間のうちに、もう気がついたらカーネギーホールやオールドマンのニューヨークで10回になるのは、その唐津時代からの人生の重要な変遷を考える。と欧米との縁が不思議な気がしますが、世界各地での招待イベントも既に40回近くになると思えますが、それが故郷唐津に近いアジアでなく欧米なのは、きっと私の意識があつたのかも知れません。映画「花筐」のロケ地になった玄海灘の海と唐津城と虹の松原の甘美なまでの故郷の美しさは、今でも画像を見れば懐かしくて胸がときめきまします。多くの読者の皆さんにも遠く離れた日本の故郷の美しい原風景とその思い出

待イベントも既に40回近くになると思えますが、それが故郷唐津に近いアジアでなく欧米なのは、きっと私の意識があつたのかも知れません。映画「花筐」のロケ地になった玄海灘の海と唐津城と虹の松原の甘美なまでの故郷の美しさは、今でも画像を見れば懐かしくて胸がときめきまします。多くの読者の皆さんにも遠く離れた日本の故郷の美しい原風景とその思い出

## 書画家田中太山 四十歳二成りマス展



書画家・田中太山の個展「四十歳二成りマス展」が、イーストビレッジのレゾポックス(東3丁目91番地)で1月25日から始まりました。同日夜に開催されたオープニングレセプションでは会場が2×4メートルの大作書画パフォーマンスが行われ、集まった多くの来場者を前に2本の大筆を使い躍動的な「感謝」の文字を描き迫力のパフォーマンスを披露した。田中は「35歳で糖尿病と診断され、このままでは死ぬと言われた。人生に悔いを残したくない。ニューヨークに来た」と話して、2年半ほど前に来米してから当地で活動し40歳を迎えられたことと、多くの人に支えられて記念の個展ができたことに感謝の意を述べ、来場者の温かい拍手に包まれて思わず涙ぐむ場面もあった。

展示会最終日となる3月25日(日)午後7時から9時まではクローゼットギャラリーと同時開催、当日が田中の40歳の誕生日であるため、オープニングイベントが開催される予定。入場無料。開廊時間は月々土曜が正午から午後10時、日曜が午後8時まで。問い合わせは電話212・598・5993、またはresobox.comを参照。

## 今年度のミスNY 出身はドミニカ共和国



2018年度ミスNYコンテストがパーチェス大学パフォーマンス・アーツ・センターで1月14日に行われ、出場者133人の中からドミニカ共和国出身のジェネシス・スエロさん(26)

が優勝した。スエロさんは、2005年にタクシ運転手の父親と一緒にブルックリンのサンプレスヒルズに移住し、7年前に米国籍を取得した。6年前からマンハッタンブルーミングデールで男性スキニングの専門家として働き、接客をしながら母語のスペイン語に加えて英語を上達させたという。同時にホスト・コミュニティ・カレッジで経営学を専攻している。ジムに通うことでスタイルを維持し、昨年はニューヨーク・シティ・1・マラソンにも参加した。スエロさんは、「米国出身ではない私が選ばれたのは、まさにアメリカンドリーム。私は、皆を笑わせたり幸せな気分させたりすることができるといってお金ではない性格に恵まれた」と話している。

東京立西高支校 同窓会米国支部  
同窓生 会員募集  
nishi-doso-usa@hotmail.com

### 意見広告

### ●海外から歴史問題を考えるシリーズ ③

# 「慰安婦問題」で苦悩する在米日本人と「ひまわりJAPAN」の役割

## 米国の教育現場で公然と行われている日本 人児童へのいじめと偏向教育に立ち上がる

ニューヨークとニュージャージー近郊の学校では「歴史問題」に端を発した「いじめ」や「偏向教育」が公然と行われている。ほんの一例であるが、米国最大の教科書出版社「マクグロウヒル」の高校の世界史教科書には「日本軍は14歳から20歳までの20万人もの女性を強制的に連行し、徴用し、『慰安所』、娯楽センター」などと呼ばれた軍用売春施設で働かせた。日本軍は慰安婦たちを天皇の贈り物と言って兵士に提供した。女性の多数は朝鮮と中国の出身者だった。「慰安婦」は毎日20人から30人の相手をさせられた。逃げようとした者は日本兵に殺された。戦争が終わる頃には、慰安所でもあったことを隠すために多数の慰安婦を虐殺した」とおぞましい内容が書かれている。日本の歴史研究者や学者たちからは「この慰安婦の記述は史実に反する」という声明文が出されており、それに対してアメリカの学者たちは全く反論できなかった。なぜならこれらの記述はすべて韓国と中国によって捏造された「反日プロパガンダ」だからである。

捏造された「反日プロパガンダ」を授業で勉強させられる日本人の子供たちを待っているのは、クラスメイトからの「強姦魔」「テロリスト」と呼ばれつづける吐きかけられる「いじめ」である。ある日本人のお母さんから、娘が学校で韓国

人の生徒から皆の前で「日本人は12歳から13歳くらいの子供を拉致して性奴隷にし、20万人以上の少女を虐殺した」と糾弾され、家に帰るなり怒りを母親にぶつけ「日本人でいることが恥ずかしい」と言ったという残念な報告もある。また「Unbroken: The Boy」といった反日映画を学校の授業で見せられ、映画が終わって先生から感想を求められた日本人の子供たちは、全員下を向いて押し黙ってしまった。こんな反日的なひどいことが実際のアメリカの学校現場で起きている。

この事実を知った私たちは、怒りと耐え難い屈辱感でこの「捏造」をどうにかしなければならぬと思っただ。同時に、明星大学教授の高橋史朗氏が、米国内での「歴史問題」に関する「正しい歴史の共通認識」を築くため、2016年6月にニューヨークとニュージャージーに住む日本人女性が集まり「ひまわりJAPAN」というグループを立ち上げた。これはアメリカにお住まいの日本人の皆さまに「正しい日本の歴史と現在日本が置かれている様々な状況をお伝えし、日本人として、また未来を生きる日本の子どもたちが誇りを持って生きられるようサポートする会」とある。

ただ、多くの保護者たちは、なぜ自分の子供たちがこのような状況に置かれておられるのか背景や原因をほと